

令和6年度 関東農政局国営事業評価委員会(再評価)

技術検討会(第1回) 議 事 録

日 時 : 令和6年5月 30 日(木) 15:00～16:15

場 所 : 深谷市南公民館1F 大会議室

[技術検討会の議事概要]

※冒頭、技術検討会設置要領の第3の2「委員長は委員の互選により選出」に基づき、筑波大学生命環境系農学域 石井敦教授を委員長に選出。

【議事】

石井委員長) それでは、これより委員長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。お手元の議事次第に従って進めさせていただきます。次第4の(1)から(3)までを事務局から説明をお願いします。

事 務 局) (1)の現地調査については、現地で説明をさせていただきましたので、ここに御報告いたします。

(2)の技術検討会に関する情報公開については、委員からの事前了解が得られたことから全3回の技術検討会は傍聴可として進めてまいります。技術検討会資料、評価結果及び検討会議事録については、関東農政局のHPにおいて公開させていただきます。また、最終的な公表資料についても、関東農政局及び農林水産省のHPにおいて公開することで進めてまいります。

(3)の事業評価のスケジュールについては、資料P7のとおり、本日5月30日、第1回技術検討会現地調査、6月27日に第2回技術検討会、7月25日に第3回技術検討会を関東農政局において実施いたします。第3回の技術検討会において、技術検討会の意見を取りまとめさせていただきます。その後、7月下旬に農林水産省本省へ評価結果を報告、8月に評価結果を公表、9月に関係団体へ結果を周知させていただきます。

石井委員長) ただいまの説明に関して、委員の皆様より御質問等がございましたらお願いいたします。

各 委 員) 特になし

石井委員長) それでは技術検討会として公表の取扱い、スケジュールに関して承認いたします。

次に次第4の(4)「国営荒川中部地区の再評価の内容について」の説明をお願いいたします。

齋藤課長) 荒川中部事業所の齋藤と申します。当事業の概要を説明させていただきます。

(資料に基づき事業の説明を実施。内容は省略)

石井委員長) 御説明ありがとうございました。それでは質疑応答に移ります。各委員より名簿順にご意見等を御発言いただきます。澤田委員、よろしくお願いいたします。

澤田委員) 総費用総便益比に関してですが、ここで示されている値が高いのか低いのか分からないので、一般的な地区の平均値を教えてください。

また、私は農業と地域の文化・教育的な部分について密接な関係があると考えています。総費用総便益比の算定において、そういった文化的・教育的観点での効果についても算定することは出来ないのでしょうか。

事務局) 総費用総便益値の平均値は、個人的な感覚として、1.2～1.3の地区が多いという印象です。

それに対して、本地区は当初 2.11、今回 2.66 となっており、総費用総便益比としては高いと思っています。その理由についてですが、他の畑地かんがいを主体とした地区と比較すると、本地区は取水施設である玉淀ダムから受益地までの距離が近いことから農業用施設の整備量が少なく済んでいるということが挙げられると思います。例えば、他地区では取水源のダムから受益地までの距離が遠く、幹線水路の整備が何十kmとなる場合もあり、そういった地区では整備に要する費用が大きくなるので、総費用も増えることになり、総費用総便益比は下がることになります。

さらに、玉淀ダムは東京発電との共同事業で整備しており、農側の負担額が全体の4割弱で済んでいることもあと思っています。

このように、農業施設の整備量が少なく、費用が安く抑えられているのも本地区の特徴だと思っています。

もう一点、文化教育に関する効果ですが、土地改良事業における費用対効果の算定手法についてはどうしても「市場価値があるもの」による項目が多く整理されており、「非市場価値」の効果算定手法の検討が遅れているの

が実態です。

今回追加となった国産農産物安定供給効果ですが、食料安保の重要性が叫ばれている中で、輸入した農産物に比べて、国内で生産するということに対する「安心感」という非市場価値について全国アンケート調査を行い、国産農産物の生産を後押しする取組みについて対価としていくら支払って良いか聴き取り、農業粗生産額あたりの原単位を設定することで評価できるようにしたところです。

このように「非市場価値」の効果算定手法につきましても検討を進めているところであり、御指摘のありました土地改良事業の文化・教育的な視点での効果算定手法につきましても、議論を進めてまいりたいと考えます。

澤田委員) 農業には地域の歴史や文化、伝統が根付いていると考えており、農業を振興することで、例えばお祭りのような地域の伝統も守られ地域振興にもつながると思いますので、そのようなことを各方面からしっかり伝えていくことが重要だと思います。

もう1点、私は職業柄、埼玉県や深谷市の農政、地産地消といった取組をよく見てきていますが、行政が一生懸命やっています。本事業は国による農業の基盤となる施設の整備ですが、国が大きな事業費をかけて整備しても、地元の農業政策、例えば新規就農者を育てる取組などと繋がらないと、将来的に農家の成長や地域農業の規模拡大につながらないと思います。国、県、市町が一体となって農業振興、地域振興のために支援していくことが重要なことであると感じていますので、そういった面での関係機関との連携状況を教えていただきたいと思います。

愛宕所長) 澤田委員からのご意見は、重要と考えています。

施設を整備することにより得られた水を地区内でどう使ってもらうか、地域と農業との関わりを深めていくため、事業所では県、市町、土地改良区と国で4者会議を開催し、畑地かんがいの推進に向けた検討を行っています。

また、推進協議会の営農検討部会では、畑地かんがいの先進地視察を行うなど、本事業と連携し普及活動を行っています。今後も地域に根差した営農推進活動を促進していきたいと考えています。

西脇委員) 景観に配慮した整備は、地元の方の意見を取り入れ一緒になって取り組んでおり良いことだと思いますが、一方で玉淀ダムでの説明で過去に環境面で玉淀ダムを撤去した方が良いとの意見が出されたと聞きました。そのことで地元が不安になったようなことはあったのでしょうか。また玉淀ダムがあることで、用水が安定的に供給されているということを説明し、納得いただいたとのことですが、その辺のやりとりがわかれば教えてもらいたいと思いま

す。

愛宕所長) H23年度に実施した、トンネル部の区分地上権更新の説明会において、地権者より玉淀ダム撤去に関して寄居町へ質問がなされており、町としてはダムの撤去は考えていないと回答しています。

また、県議会においても質問があり、知事は「耐用年数まで有効に活用する」と回答しています。最近、玉淀ダム撤去の話は聞いていません。そういった話があれば、地域の営農上、ダムが必要であることを丁寧に説明したいと考えています。

西脇委員) 総費用として当該事業費の他に関連事業費、資産価額、再整備費が含まれているのですが、どのような考え方になっているのか教えてもらえますか。

事務局) 土地改良事業の効果算定手法についてですが、事業の内容が変わってきており、かつてはダムや頭首工、用水路といった施設を新たに整備する事業が主だったのですが、近年は、既に整備された施設について部分的に改修する事業が多くなっています。

そこで整理された手法が総費用総便益比方式になります。

総費用総便益比では、評価期間である「工期＋40年」の中で農地に水を届けるために必要となる当該事業費、関連事業費、それら施設の維持に必要な再整備費等、全ての施設の維持に要する費用を合計した総費用と、一連の用水施設によって支えられている農業生産を増大する効果や、事業に伴って生じる営農や施設管理に要するコストの増減効果等を合計した総便益を比較して算定しています。

このようなことから、総費用として当該事業費以外の施設の維持に必要な費用についても計上しています。

平井委員) 3点あります。1点目は玉淀ダムを見て観光資源として非常に良いと感じました。写真映える本当にきれいなところで、カヌーなどができれば面白いと思います。景観も昭和レトロな感じでした。玉淀ダムに関する反対運動も検索すると出てきますが、子供の社会的見学等の教育の場所として使用されていますか。探究学習として使うことで、玉淀ダムの必要性についてインプットされれば、反対運動のようなものは起こらないのではないかと思います。

2点目は地域用水について、遊歩道は深谷市で、植栽はシルバー人材により整備しているとのことですが、整備内容として少しぐはぐな印象を受けました。例えば、地域用水として整備した遊歩道のすぐ脇の排水路側には侵入防止としてトラロープが使われていました。景観という面では良くないのではないかと、関係機関と地域用水のビジョンが共有されていないのではないかと

と感じました。今後、話し合いの場などでビジョンを共有することが大事だと思います。

また、メッシュフェンスはフェンスに沿って遠くを見ると白く壁の様に見える。子供の目線だと高さもあり水路が見えないので、例えばどこか部分的に透明なアクリル板などを設置するなど、水路と親しむ方法を検討することはできないかと感じました。

3点目は、昼食会場で深谷市の特産品がありませんでした。以前に深谷高校に行った際、生徒に深谷ねぎを食べられるところを聞いてみましたが、反応が鈍かったので、もっと地域で盛り上がってほしいと思いました。地元の特産品を食べられる所などアピールする動きが必要と思いました。

愛宕所長) ダムの社会科見学や教育活用については現状は実施していないところですが、御指摘のとおりダムの必要性を伝えられる有効な場になると思うので、東京発電とも相談しながら啓発活動に取り組んでまいりたいと思います。

地域用水のメッシュフェンスやトラロープについては、安全面を考慮する必要はありますが、今後整備する区間もあるので、関係機関と改めて相談したいと考えています。

深谷ねぎを使ったメニューは、岡部駅前の食堂などで提供しています。地元食材の提供場所については、折に触れて紹介していきたいと思います。

堀田委員) 深谷市は県内の市町村の中でも農業産出額が突出しており、基盤整備、畑地かんがいがあるものだと、本日の現地視察で基盤整備の重要性を確認できました。受益農家とのやりとりでは、法人化、大規模化をしていく中で、営農体系の変化により用水利用ニーズが変化していると感じました。地球温暖化が進行する中、用水で地温を調整するなど、農業用水が別の使い方新たな効果を生んでいると話がありましたことについて説明資料等反映してはどうかと感じました。

愛宕所長) 営農体系の変化に伴う用水の使い方について、農家の工夫などの記載については、事務局と相談させていただきます。

石井委員長) 本地区は非常に農業生産額が高い深谷市を中心とした地域で、地元から望まれている事業で、事業が適切に進捗していると感じました。

その中で、畑地かんがい事業では、幹線、支線まで整備しているが末端まで用水が届いていないケースがよくあります。本地区は畑まで届いていない面積は何ヘクタールあるのでしょうか。

齋藤課長) 未着水の畑の面積は 1,572 ヘクタールです。

石井委員長) 約 4 割ですね。本地区では、未着水の畑をどうやって取り込んでいくのが大きな課題だと思います。費用対効果も用水が届く見込みで算定していると思いますが、一期事業から水が届けられていない地区に水をきちんと届けることが本地区では重要なことだと思います。仮に水が届かなかった場合に効果が 1.0 を超えるのかという視点も出てくるので、このことについては説明が必要と考えます。

もう1点、小山川から荒川に取水源を変更したことは大きな改良なので用水再編の話を経験に資料に入れてください。

また、農業関連の資料のところ、深谷市が本地区の大半を占めているので、参考で構いませんので、3市町ではなく深谷市だけの比較で傾向を見てみたいので、資料作成をお願いします。

齋藤課長) 事務局と相談し、資料を準備させてください。

事務局) 費用対効果分析に関する部分についてですが、効果算定におきましては、評価期間 53 年間のなかで関連事業の進捗に合わせて段階的に効果が発現することを加味して算定しています。よって現時点で関連事業が未実施であり水が届いていない範囲については該当部分の用水の効果も発現していない形で評価しています。このことから、関連事業の進捗が予定より若干遅れたとしても総費用総便益比が 2.66 から大幅に低下することはないと考えています。

寺田課長) 関連事業の進捗ですが、これまで幹線水路から順次整備しており、これから末端水路を整備していくところで、次の段階に入ったところです。受益農家の方も言われていましたがブロッコリーは水が必要です。深谷市もブロッコリーを推していくと言っていますが、新しい作物も取り入れていくことが重要と考えています。今後は関連事業を進めつつ、新たな産地形成が重要と考えます。

石井委員長) 関連事業の整備内容は何でしょうか。

寺田課長) 水路の新設や用水再編があります。

石井委員長) 末端水路整備とは、ほ場整備事業のことですか。

愛宕所長) 水路整備やほ場整備を含めて関連事業として位置づけられています。

石井委員長) 以上、第1回技術検討会の議事について終了します。